



わが市わが町 二宮町 ボランティアと進める里山再生

二宮町は神奈川県南西部の湘南エリアに位置し、東京からは約70km、横浜からは約40kmと、電車を使えば都心まで60分余りで行けることから、都心のベッドタウンとして発展してきた総面積9.08km²のコンパクトな町です。

町の形状は大よそ三角形で、南部の相模湾に面する海岸部から連なる平野部、北部の山間部、中央を南北に流れる二級河川の葛川の侵食谷部から構成されており、平野部と比較的緩やかな斜面部の多くは宅地、その他の斜面地は畑と山林になっています。

夏は涼やかで冬も暖かな気候にも恵まれた「住環境」と、農地や山林のいたるところにのどかな里山風景を残す「自然環境」とが調和した住み良い町です。

町では里山の整備保全に対する社会的関心の高まり等から、町農業委員会や町内で里山に係る活動を行うボランティア組織等で構成する「里山づくり推進協議会」を平成18年に発足しました。

活動内容としては里山の手入れや体験活動による里山づくりの促進など、里山の保全育成を推進するべく、町内の幼稚園、保育園の園児を対象とした棚田での「田植えや稲刈りの体験学習」や、一般の町民を対象と

した「原木椎茸の植菌教室」を例年実施しています。

「田植えや稲刈りの体験学習」は、かつて数多く耕作されていた棚田を体験学習用地として再生し、管理しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響、本年度は天候不順によりイベントが中止となり、田植え体験を楽しみにしていた園児達に学習の機会を提供できなかったことは大変残念でした。

現在は秋の収穫に向けて、「里山づくり推進協議会」をはじめとするボランティア組織の協力により田植えを実施し、棚田の保全管理に努めているところです。



再生された棚田

毎年恒例の「原木椎茸の植菌教室」は、県内でも有数の生産量を誇る町の特産物「原木椎茸」を生産している農家さんを講師にお招きし、古くから行われてきた原木を用いた椎茸の「栽培方法の講習」や、原木に種菌を打ち込む「植菌の実習」を実施しています。

「植菌の実習」の際に使用される原木は、循環型の里山育成を図る一環として、町内の山林から切り出した間伐材を使用することで、森林再生の一助を担っています。



原木椎茸の植菌教室

各種事業の推進により、一部の山林においては、里山の再生や保全が図られている一方で、多くの民有林においては荒廃化が進んでいる状況にあり、山林所有者による適正管理が望まれますが、高齢化が進展する現代において、山林所有者が独力で維持管理を行うのは困難な状況にあるため、ボランティア組織による山林の管理支援や管理代行が、今後より一層期待されます。

今後も長期的な視点に立ち、体験等の学習機会を通じて里山に対する関心を高めるとともに、ボランティア組織が行う里山再生に係る活動を支援することで、町全体の里山の保全育成に努めてまいります。(二宮町 都市部産業振興課)